



※ 記念撮影時のみマスクを外しております

コノハナザクラ植樹祭 (静岡分苑)

●静岡県富士市



前日までの大雨がうそのように上がった三月十四日、静岡分苑にて、コノハナザクラの植樹祭が行われました。

静岡分苑は、江戸時代の浮世絵師・葛飾北斎が「富嶽三十六景」全四十六図のうち、三図を描いたとされる富士市にある神の家です。この日は爽やかに晴れ渡った春空の下、聖地からの長旅を終えたコノハナザクラが、雪残る富士山を背に美しく輝いていました。

和名「コノハナザクラ」は三代教主さまのご神霊である木花咲耶姫命にちなんで名付けられました。お筆先には、「今度は頂宮の木花咲耶姫殿が、世に出ておいでる神サント、世に落ちて居りた神との和合を為せる御役を、神界から仰せ付けが在りたのじゃぞよ」(『おほとしんゆ』第五巻)と示されています。

富士山は、和合の象徴である木花咲耶姫命の御神体山です。その富士山を拝す静岡分苑にコノハナザクラが植樹されたことは、一陽来復の兆しのように思われます。

(前田茂太特派官(伝使報))